

CO2排出量算定アンケート結果の詳細

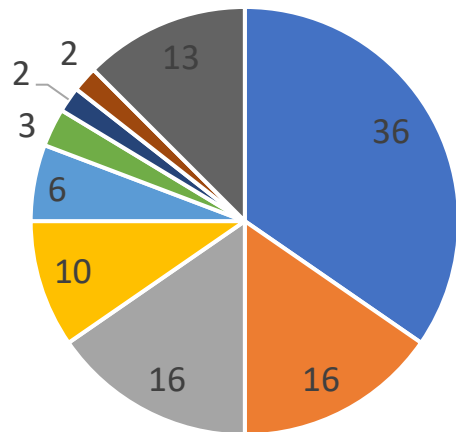
2025年2月26日

エネルギー・環境委員会 事務局

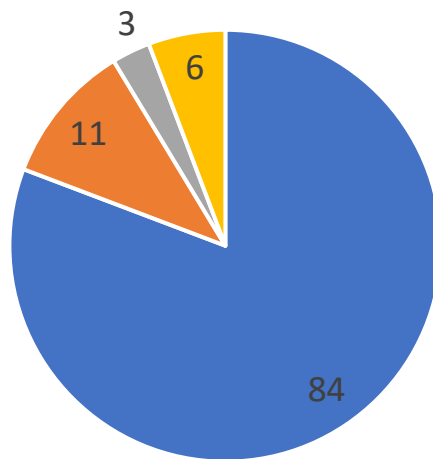
Q3～Q5：業種・資本金・従業員数について教えてください。

- 業種については、製造業が3分1を占めていた。
- 会社の規模については、80%以上が資本金1億円以上の大企業であった。
- 従業員数については、1,000人以上の会社が半分以上を占めているが、300人未満の会社も4分の1であった。

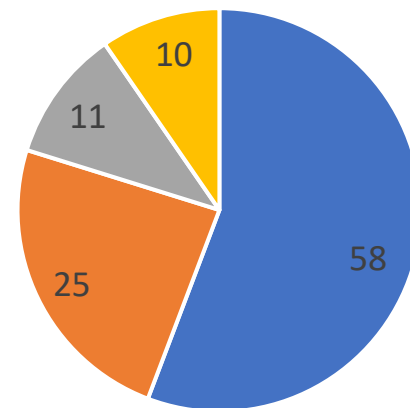
業種の内訳



会社の規模



従業員数



- 製造業
- 建設業
- 電気・ガス業
- 経済団体
- その他
- 商社・サービス業
- 金融・保険業
- 物流業
- 運輸業

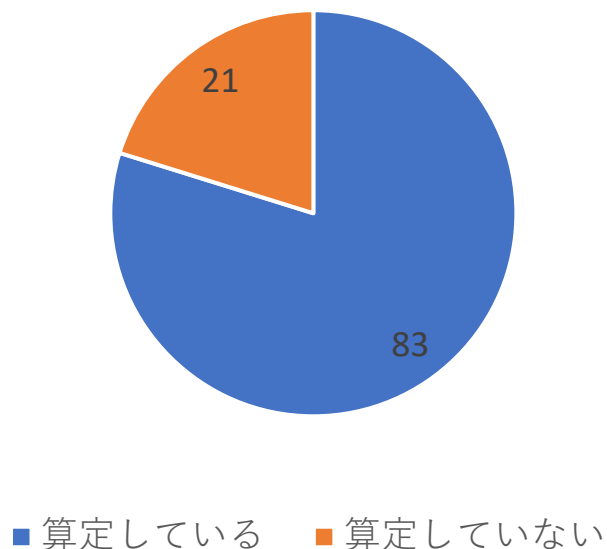
- 1億円以上
- 1億円未満～3千万円以上
- 3千万円未満～1千万円以上
- 200万円未満

- 1千人以上
- 1千人未満～300人以上
- 300人未満～100人以上
- 100人未満

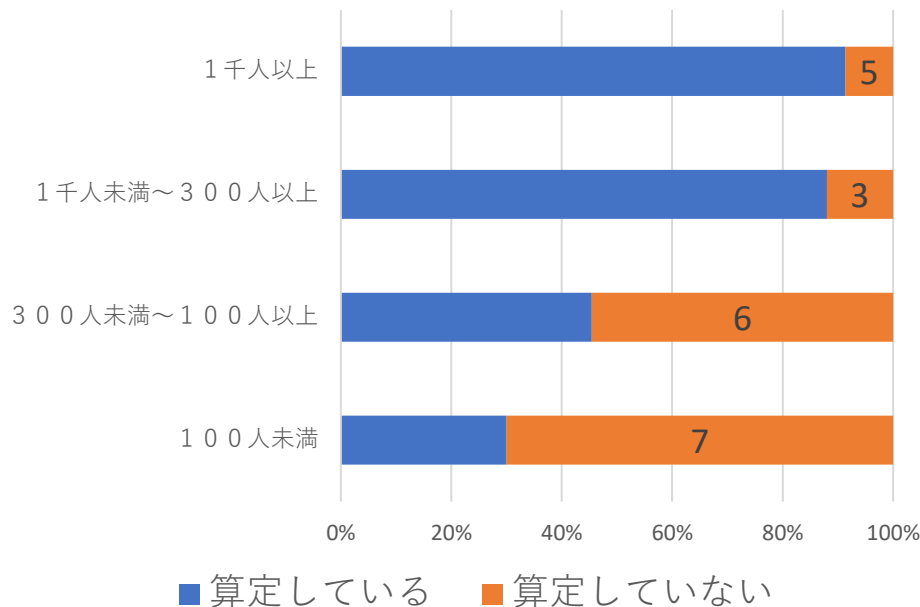
Q6：CO2排出量の算定を実施していますか。

●排出量の算定は、約8割の会社の実施しており、会社の規模別の算定について調べたところ、規模が大きな会社ほど算定している割合が多かった。

排出量の算定



規模別の算定割合



算定していない会社の回答 (n=21)

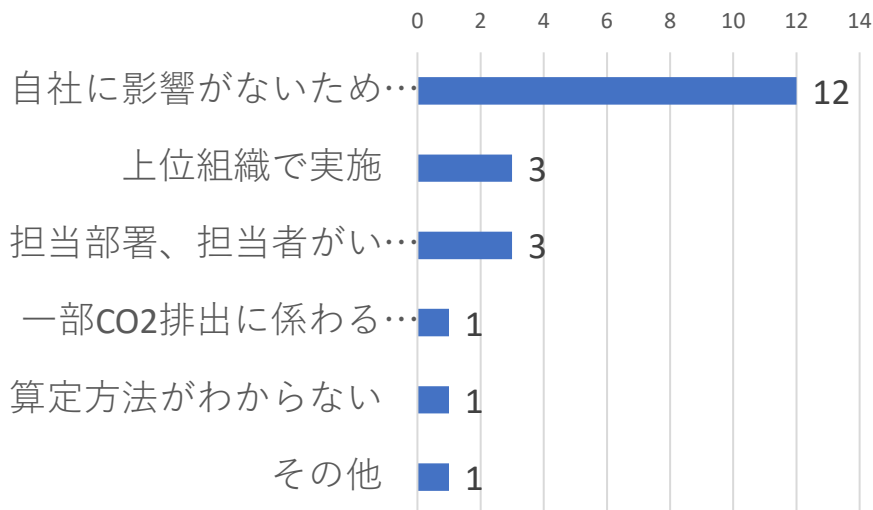
Q7：算定していない理由を教えてください。

Q8：今後、算定する予定がありますか。

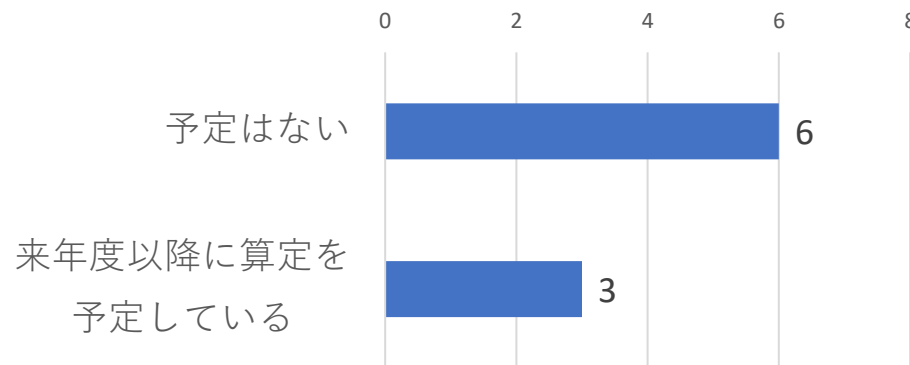
Q9：算定を実施するために必要なこと（もの）は何ですか。（複数回答可）

- 算定していない理由としては自社に影響がないため、実施していなかった。
また、算定方法がわからないのは、1社にとどまった。
- 今後の算定予定に関しては、来年で以降に予定している会社が、3社であった。
- 必要なものについては、今後算定予定をしている3社すべてが、算定ツールが必要と回答した。

算定していない理由



今後の算定予定



算定に必要なもの（複数選択）

算定ツール	3社
算定できる人材	2社
サプライチェーンの協力	1社

これ以降は、算定している会社の回答 (n = 83)

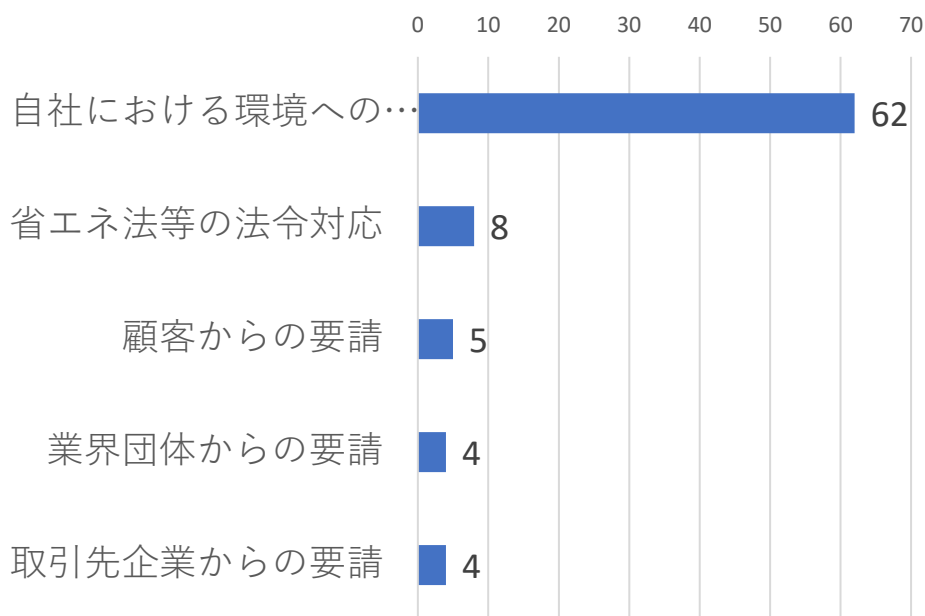
Q10：CO2排出量を算定する目的、およびきっかけを教えてください。

Q11：算定を主体的に行っている組織について教えてください。

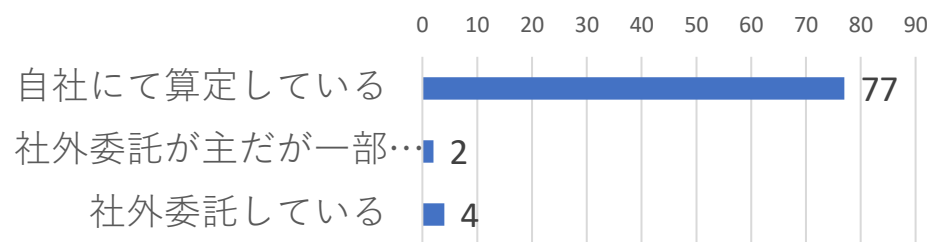
Q12：算定の実施回数について教えてください。

- 算定のきっかけは、大部分が自主的にはじめており、他社からの要請で開始した会社は少なかった。
- 自社にて算定し、毎年実施している会社が多い。

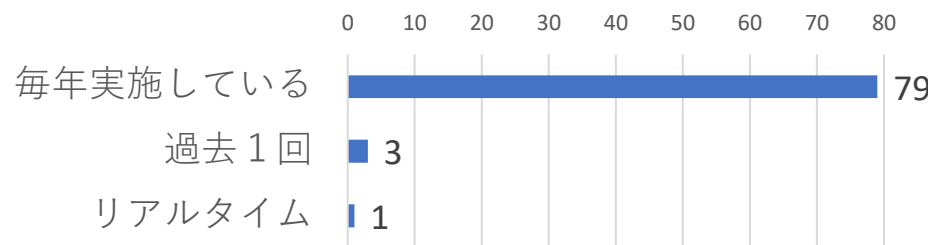
算定の目的およびきっかけ



算定方法



算定の頻度

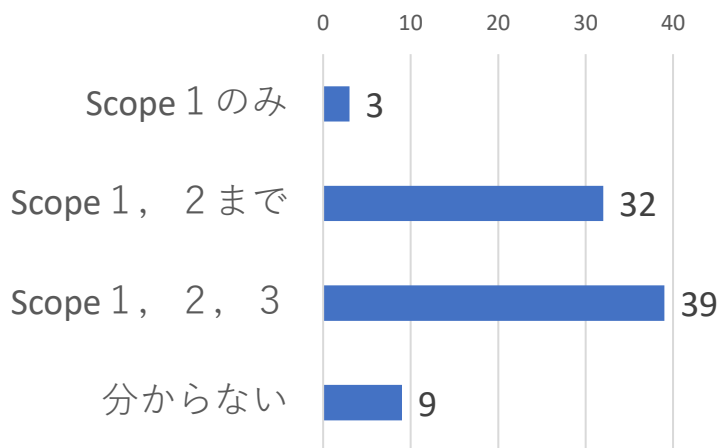


Q13：算定している Scope はどの範囲ですか。

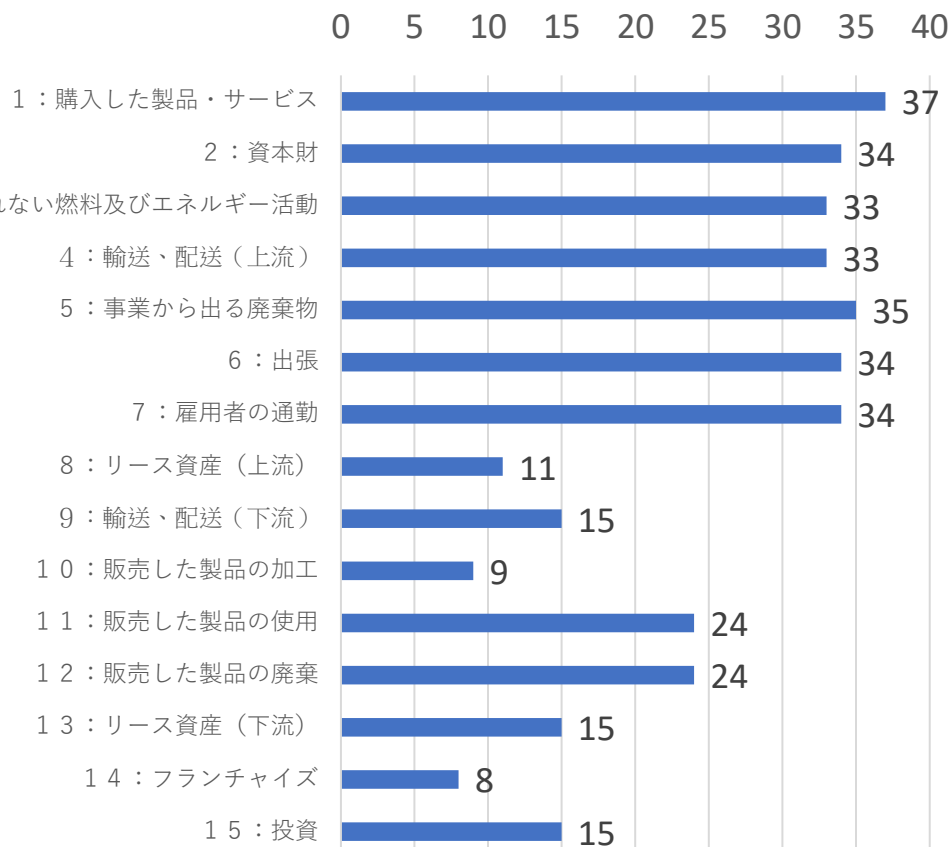
Q14：Scope 3 にて算定しているカテゴリを全て選択してください。

- Scope 1, 2, 3 すべてを算定している会社が多く 47% の会社が算定していた。
- カテゴリ 1 から 7 までは、比較的多くの会社が算定していた。

算定の範囲



Scope 3 の算定

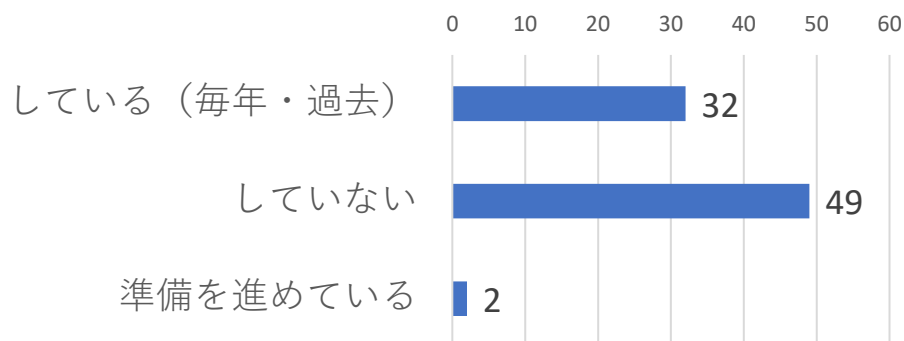


Q15：第三者による検証・保証を受審していますか。

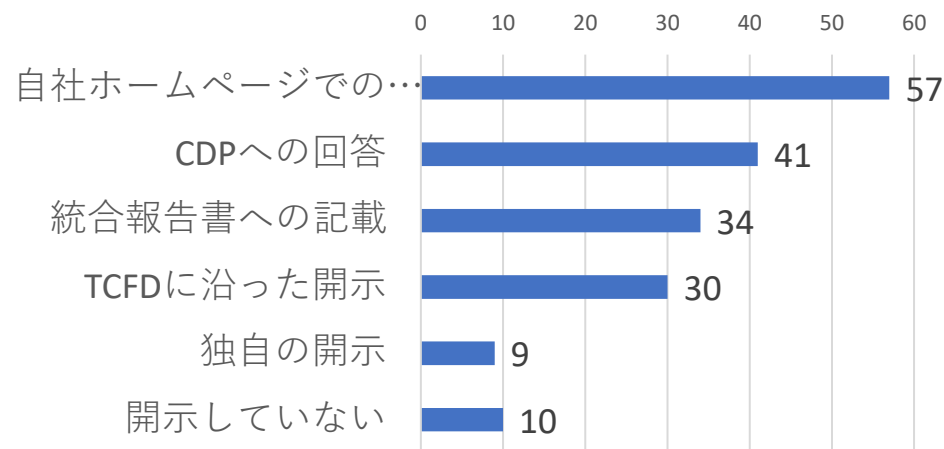
Q16：情報公開に関して開示媒体に当てはまるものを選択してください。（複数回答可）

- 第三者による認証に関しては、約4割の会社が外部による認証を行っている。
- 算定したものは何らかの形で情報公開をしているが、約1割弱の会社で算定だけにとどまっている。

第三者による認証



情報の開示

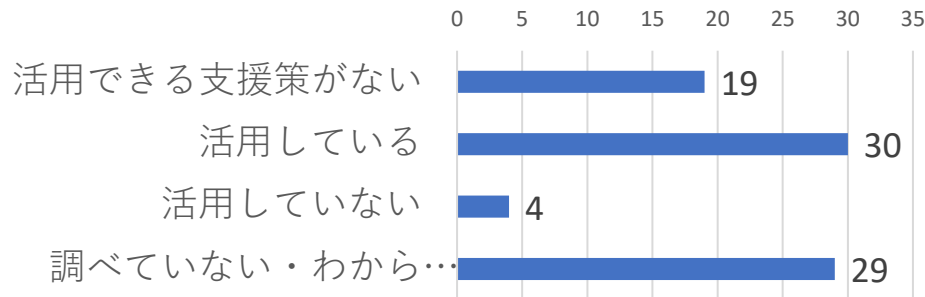


Q17：国や自治体等からのCO2排出量算定・削減に関する支援策を活用していますか。

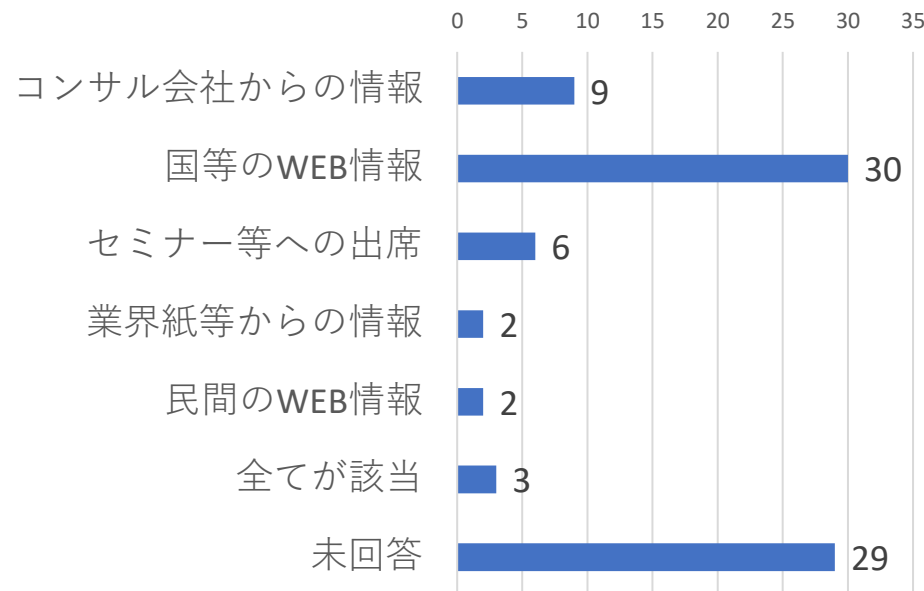
Q18：CO2排出量算定・開示に関する支援情報の入手先について該当するものを選択してください。

- 支援策を活用できている会社が約4割あるが、調べていない・わからないも約4割あり支援策の活用も課題となっている。
- WEB情報の活用が多かったが、未回答（該当なし）も多く情報収集に苦慮している可能性がある。

国等からの支援策



情報の入手方法



Q19：CO2排出量算定・削減のための支援策について活用しているものがあれば、ご記入ください。

- 環境省、経産省の情報・ツール等を活用している。
- 補助金に関しても、国からの支援だけでなく業界からの支援を活用している。

支援策	主なご意見
情報開示	<ul style="list-style-type: none"> ・環境省の開示情報 ・排出原単位データベース、IDEAv2、排出量算定に関する基本ガイドライン（環境省、経済産業省） ・中小企業基盤整備機構のハンズオン支援（取引先のCO2削減支援を活用） ・セミナー等による情報収集 ・環境省の算定ツールを活用
補助金	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内のZEB建設に補助金を利用 ・経済産業省の省エネルギー投資促進支援事業費補助金をボイラーやプラスチック加工機などの省エネ設備導入に活用 ・ロジソーラー、every cool（停車時クーラー）の導入時に、トラック協会からの補助を活用 ・省エネルギーに投資促進支援事業費補助金
資格支援	<ul style="list-style-type: none"> ・炭素会計アドバイザー取得（愛知県の脱炭素経営支援制度）
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・社外のエネルギー削減事例を関係箇所へ展開 ・再生可能エネルギーの導入 ・太陽光発電、高効率設備の導入

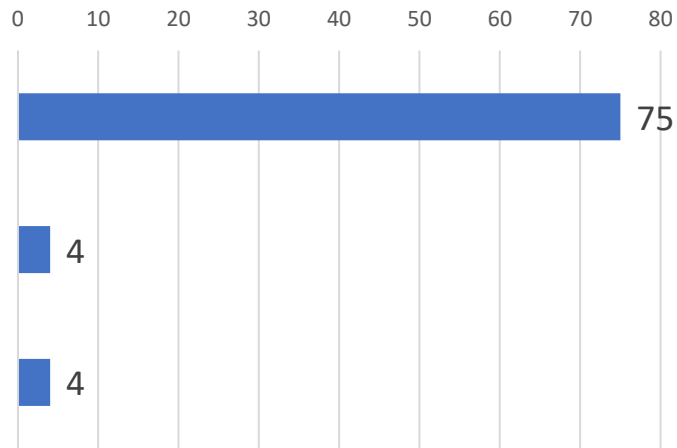
Q20：CO2排出量削減に向けた定量目標を決めていますか。

Q21：定量目標の達成に向けて具体的な行動計画を策定していますか。

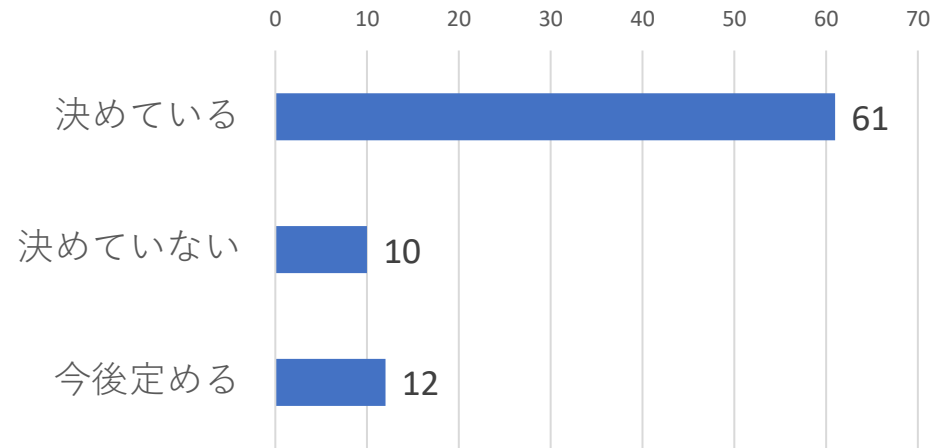
●定量目標はほとんどの会社が決めていた。

●行動計画については決めている会社が多いが、約4分の1の会社が決めていない・今後定めるであった。

定量目標



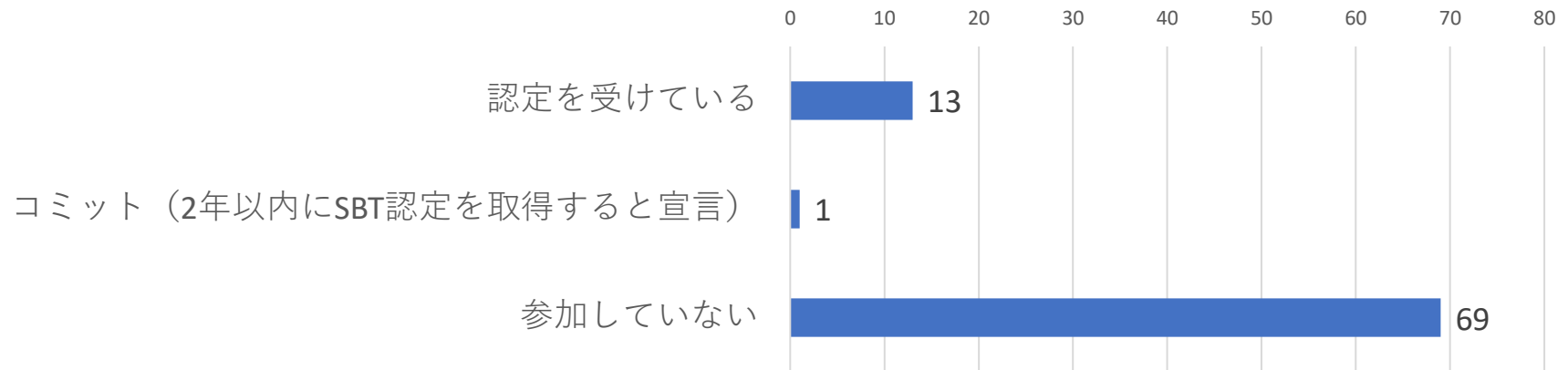
具体的な行動目標



Q22：SBT（Science Based Targets）に参加していますか。

●参加していない会社は多いが、コミットを含めて14社が認定を取得または今後取得となっている。

SBTへの参加



Q23：CO2排出量算定・削減に取り組むにあたり、課題があればご記入ください。

- 各社、排出量を算定したものの、削減の対応に苦慮している。

課題	主なご意見
社内体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ Scope 3 算定について、経営層の理解に温度差 ・ 社内の理解が進まず苦慮している ・ 確からしさや外部からの要求に対応しきれていない ・ 組織体制ができておらず、どのように対応すればよいか分からない ・ 人員が不足 ・ Scope1,2の集計、Scope3の算定工数が多大で、開示の適時性を問われると対応が困難
コスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ CO2フリー電気や証書購入や環境価値購入でオフセットしかなく、毎年価格上昇の中、原資が必要で、今後は経営へのインパクトが無視できない状況 ・ 水素をはじめとするメタン、グリーンエネルギーの調達と活用にコスト増 ・ 現時点でコスト的に実用可能なソリューションがない高温域の製造プロセスの脱炭素化を推進
削減ネタの模索	<ul style="list-style-type: none"> ・ 省エネ活動のみでは削減に限界 ・ 今後、継続的に削減ができるのかどうか不透明 ・ 削減対策は以前より取り組んできており、主要な削減対策については導入可否の判断を行い対応してきた。そのため、次に取り組む削減対策が見つげにくい
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 補助金の多くが中小企業向けのため、弊社が受けれる補助金が少ない ・ Scope3の算定について、取引先などの削減努力を反映できる算定方法になっていないため、見直して適切な算定方法を模索することが必要

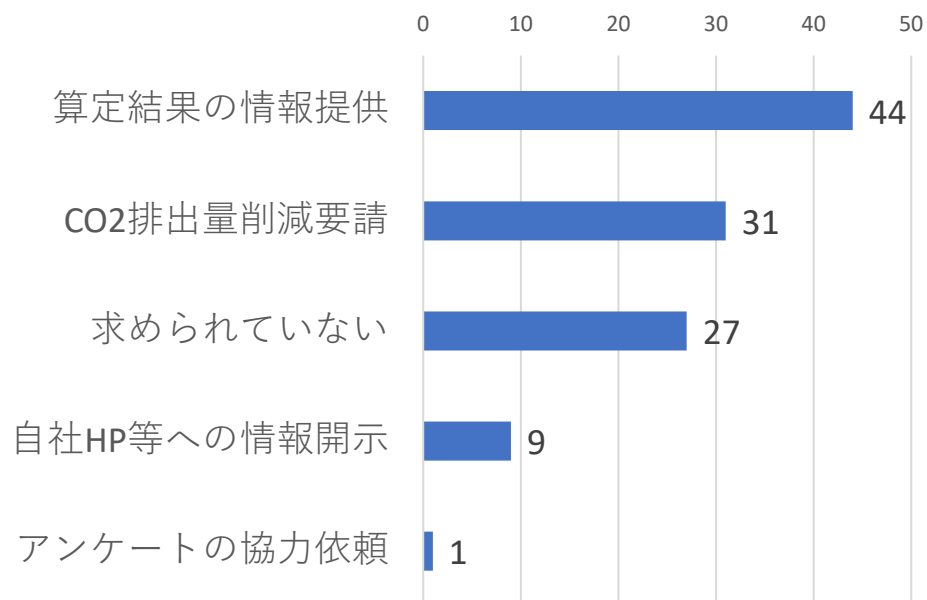
サプライチェーンとの関係

Q24：サプライチェーンから、自社のCO2排出量に関して何かしらの要請がきていますか。一般社団法人 中部経済連合会
 (複数回答可)

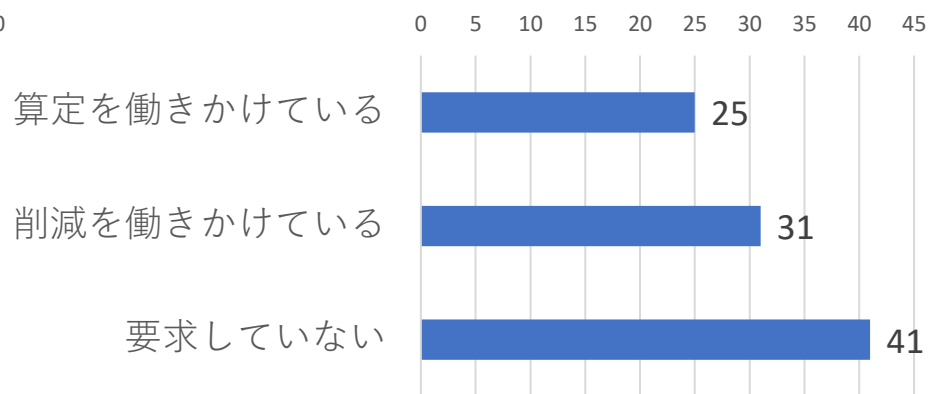
Q25：サプライチェーンの上流・下流企業に対して算定・削減の働きかけをしていますか。
 (複数回答可)

- 他のサプライチェーンからは、算定、排出量削減、情報公開が求められている。
- 約35%に会社が、他社から排出量の削減要請を受け、他社に対しても削減を要請している。

サプライチェーンからの要請



サプライチェーンへの働きかけ

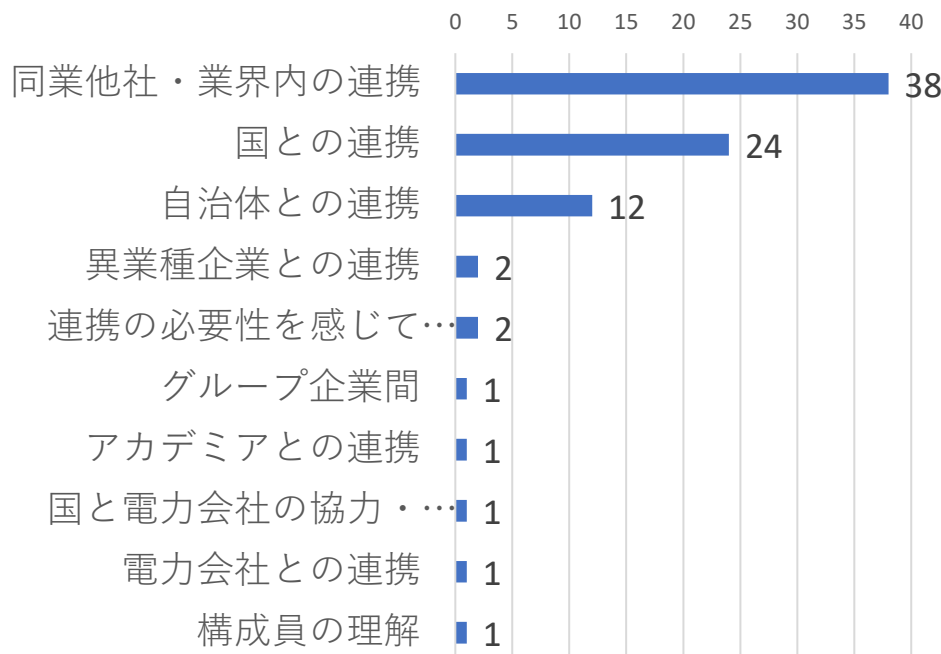


Q26：CO₂排出量削減のために最も必要であると思われる連携を選択してください。
（複数回答可）

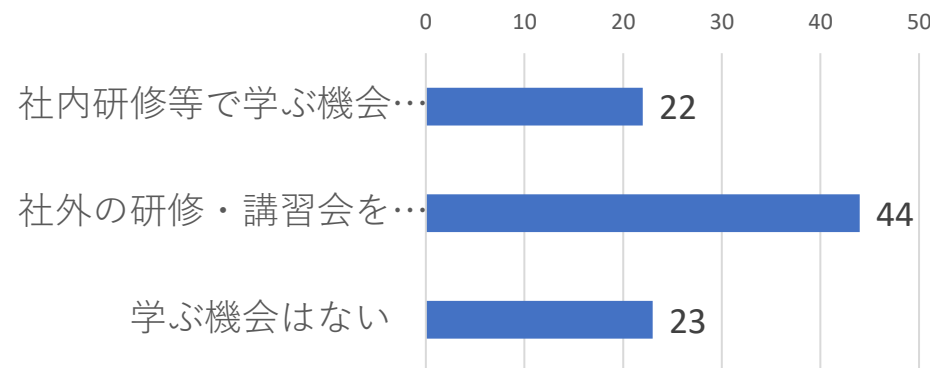
Q27：自社において、CO₂排出量削減に関する国の方針・制度（排出量取引制度等）について学ぶ機会がありますか。（複数回答可）

- 削減に進めていくためには、同業他社、国・自治体との連携が必要と考えている。
- 約3割の会社が学ぶ機会がない状況となっている。

排出量の削減に必要なこと

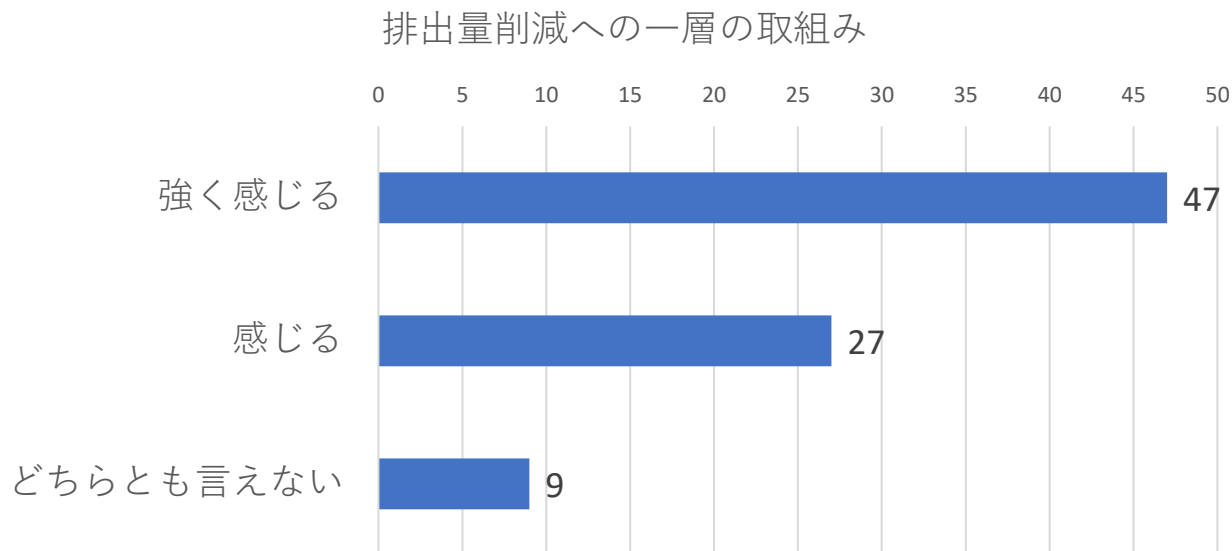


制度・方針を学ぶ機会



Q28：自社として、CO2排出量削減により一層取組む必要があると感じますか。

- Q28の回答結果では、「強く感じる」・「感じる」が多数を占め、必要性を感じている企業が大半。
- 理由についても多くの回答があったら、「強く感じる」・「感じる」企業において、「社会的使命・企業責任」が非常に多く、他にも「事業継続への危機感」などの理由も見られた。



Q29：その理由（自由記述）

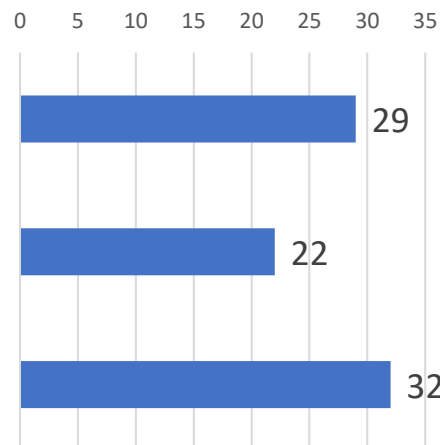
回答	理由	主なご意見
<ul style="list-style-type: none"> ・強く感じる ・感じる 	社会的責任 企業責任	<ul style="list-style-type: none"> ・会社として地球環境問題に真摯に対応し、社会に貢献しようとしているため ・CO2排出量削減は、企業の社会的責任 ・子供たちの未来のために必要だと思うから
	事業継続への 危機感	<ul style="list-style-type: none"> ・お客様の要求に答えられないと、仕事が減少していってしまう懸念があるため ・顧客との契約継続への影響が大きくなっていると感じるから
	対外要請 (顧客・法規制)	<ul style="list-style-type: none"> ・客先ニーズより、取組みが必要 ・今後、国・自治体等から具体的なCO2排出量削減が求められると考えられるため
	チャンス	<ul style="list-style-type: none"> ・排出量削減の努力をすることで業務の効率化にもつながり、ビジネスチャンスが増える
	理解深化	<ul style="list-style-type: none"> ・削減への具体的な施策がなく、社内の環境に対する意識が高くない
<ul style="list-style-type: none"> ・どちらとも言えない ・感じない 	排出量が 少ない	<ul style="list-style-type: none"> ・業種としてCO2排出量削減はあまり関係ないが、社用車はハイブリッド車にシフト ・環境に配慮する必要はあるが、当所としては排出していないため

Q30：脱炭素アドバイザー資格制度（環境省）を知っていますか。

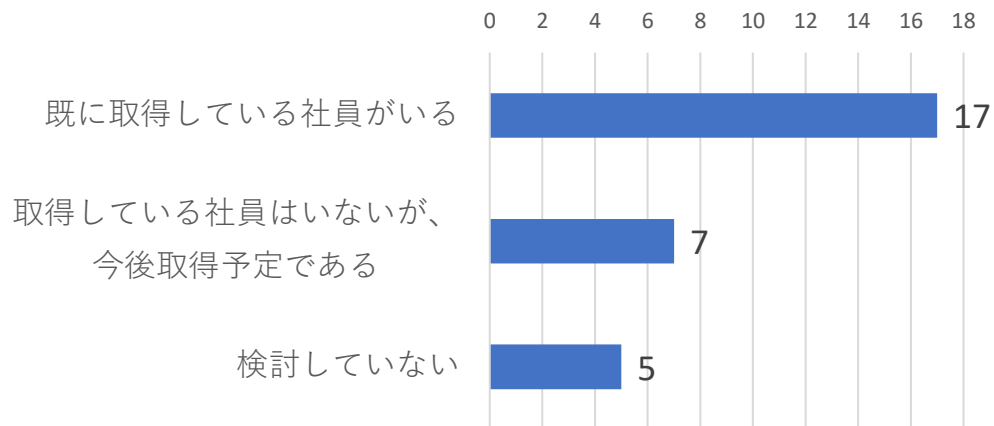
Q31：脱炭素アドバイザー資格の取得状況についてご回答ください。

●脱炭素アドバイザー資格制度については、約6割の会社に認識があり、資格の取得を行っている。

脱炭素アドバイザー資格制度（環境省）



脱炭素アドバイザー資格の取得状況



Q32：CO2排出量の算定・削減に関して自社でお困りごとがあれば自由に記載ください。

- 上層部の理解不足、コスト面の課題、削減手段、人材育成において等において課題がある。

課題	主なご意見
社内体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門部署を立ち上げたいが、なかなか理解してもらえない ・ CO2排出量の算定・削減に対応する適切な組織体制が構築されていない ・ Scope3への対応のためにも関係部署の協力が必要となるが、具体的な説明が難しく、周知の方法も明確になっていない
コスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 税務リスクがあり、子会社・関連会社向けの排出削減投資支援が充分に行えない ・ 全世界的に最終消費者への排出削減コストの転嫁が出来ていない ・ EV導入・太陽光発電等CO2削減に向け検討しているが、コスト面が問題である
削減ネタの模索	<ul style="list-style-type: none"> ・ 削減可能性がある施策が見つければ取り組むという「成り行き」の取り組みになっている。計画的に進めることの難しさに直面している ・ 省エネ活動のみでは、削減に限界がある
人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境に精通した施策を推進できる人材の育成は課題と感じます ・ 排出削減に直接関わっている社員（現場社員など）に対するCO2排出量削減についての社内教育が進まないこと
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ Scope3について、世間がどこまで目標を立て、取り組んでいくのか分からない ・ Scope3の削減施策について自社単独の活動でSBT基準を満たすことは難しい ・ お客様のご依頼や、法・条例対応などにてCO2排出量関係のデータ提出の対応をしているが、それぞれ独自ルールでの依頼であり対応に苦慮している